「海星中学校の伝統芸能伝承活動の取組」

１　学校名

薩摩川内市立海星中学校

２　学年・人数

青瀬地区生徒（１人）　鹿島地区生徒（６人）　計７人

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和４年10月～11月　青瀬地区コミュニティセンター

令和４年７月～11月　鹿島公民館

⑵　発表の日時・場所

【青瀬ヤンハ】

令和４年11月３日（木）　青潮神社例祭（青瀬地区）

令和４年11月５日（土）　本校文化祭（海星中）

【鹿島太鼓】

令和４年11月６日（土）　本校文化祭（海星中）

令和４年12月４日（日）　こしきしま竜宮文化フェスタ（かのこ幼稚園）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

⑴　青瀬（あおせ）ヤンハ（青瀬地区生徒）

ア　由来

由来は諸説あり、年代もはっきりしていないが、青瀬郷土芸能保存会長によると、「壇ノ浦の戦いに敗れた平氏の落人が島に流れ着き、考え出したと伝えられている。」ということである。江戸時代には島を治める地頭の来訪に合わせて披露したようである。

イ　構成等

太鼓と拍子木に合わせて、刀で切るような扇子の動きに特徴がある。「ヤンハ」という力強いかけ声の一方で、日本舞踊の優雅な動きもある。踊りの「出羽・中踊り・入羽」の三部構成からなる。

⑵　鹿島太鼓（かしまだいこ）（鹿島地区生徒）

ア　由来

昭和55年に鹿島村郷土芸能保存会が組織し、新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行った。その後、婦人会を中心に継承し、鹿島小中学校（中：現在休校）の児童生徒が練習し、文化祭などで披露してきた。

イ　構成等

大太鼓、中太鼓、締太鼓、小太鼓で形成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジしている。

５　保存会や地域との連携の具体

伝統芸能の伝承については、各地域の保存会が中心となり、取り組んでいる。そのため、学校は教育活動に位置付けることはないが、各地域担当職員が保存会と連携し、伝承活動を積極的に支援している。また、生徒減少に伴い、保存会の方々や本校職員が参加し、文化祭や各地域の行事において披露している。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校では小中一貫教育において、地域での伝統芸能を小学校５年～中学１年生がその由来や特徴等を調べ、壁新聞等を作成している。そのため、生徒は各地域の伝統芸能に高い関心をもっている。

７　取組の様子（練習状況、発表の場等）

【文化祭（青瀬ヤンハ）】

【文化祭（鹿島太鼓）】

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【生徒】

・　文化祭で披露するのは今年で最後だったので、精一杯たたきました。後輩にしっかりと伝統を受け継いで欲しいです。保存会の方々練習、指導等ありがとうございました。

・　地域生徒数が少なかったので、保存会の方々や先生方に協力していただきました。練習は大変だったけど、文化祭や例祭で、先生方や保護者、地域の方々に披露でき、最高の思い出になりました。

【教職員】

本校の文化祭の特色である、各地域の伝統芸能披露が職員も参加し、地域ぐるみで披露することができ、生徒とともに良い経験となった。しかし、コロナ禍の影響により、練習が思うようにできず、披露できない地域があり残念だった。今後も地域とともに伝統芸能を伝承し、下甑島を盛り上げたい。

【保存会から】

今年度は先生方にも協力していただき、練習や当日の披露も上手くできました。今後は、生徒が少なくなっていく中で、郷土芸能をどのようにして伝承していくかが課題です。子供たちが、島立ちしても郷土（下甑島）を思う気持ちを忘れず、一生懸命頑張ってほしいです。